

熊本県立農業大学校学生寮

PREFECTURAL COLLEGE OF AGRICULTURE DORMITORY

熊本の農業を担う若者達が集団生活を通して、
豊かな人間性とかけがえのない友情を
育んでいる学生寮。

中庭を囲む広場型の配置のテーマは「共同性」。

2年間共に暮らす学生たちの

和を生み出す形になっている。

建物は県産材をふんだんに使った

スケールの大きな木造建築。

また、壁や天井にも有明海の貝灰や

阿蘇の火山灰土を使うなど、

将来は農業に従事する学生たちが

暮らす場にふさわしく

自然との共生を感じさせるものとなっている。

4人の建築家がプロジェクトを組み

「学生たちの誇りとなる建物を」という思いで

作りあげた作品である。



くまもとアートポリス
kumamoto artpolis

熊本県 くまもとアートポリス事務局
熊本県土木建築課
〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1
☎ 096-383-1111(6215)



熊本県立農業大学校学生寮

● 建築概要

まず考えたのは、全体の配置をどうするかだった。既存の寮に泊り込み、あれこれ話しを聞いているうちに思ったのは、“共同性”ということだった。学生たちにとって、この寮での二年間が、生涯最後の共同の場となり、卒業後は自営農業者として生きていくことになる。

共同性の濃い配置計画として、中庭・回廊式を採用ことにした。原始時代にはじまりヨーロッパの修道院などなど、人類史上これまで広く活用されてきた配置にはかならない。草(芝)、木(カンキツ類)、石(白砂)、花(野菜花)をテーマとした四つの中庭の周りに、延長400メートルの回廊が巡り、200人100室の寮室が囲む。

建物については“熊本の木を使う”、というのが県の最初からの方針であり、設計者側としても望むところ。県内の林産地を回り、杉・桧・赤松・栗の四種を適材適所で使っている。学校敷地内にも桧の立木があり、伐り出し、記念とお守りの意味を込め、玄関に立てて使っている。木材の表面仕上げは、自然素材ならではの非均質性を生かすため、曲面カンナという珍しいカンナを振るい、より凹凸の付くよう、ヒビ割れや節が目立つようにした。

内部は、壁から天井まで、有明海産の貝殻を焼いて作った貝灰(漆喰)を塗り回し、また一部には敷地から掘り出した阿蘇の火山灰土を使っている。木材も漆喰も土も、これすべて阿蘇の恵みなのである。

(藤森 照信)

● 設計者



藤森 照信 (ふじもりてるのぶ)

1946年 長野県生まれ
1971年 東北大学工学部建築学科卒業
1978年 東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程修了
1996年 東京大学教授

● 主な作品

神長官守矢資料館、たんぽぽハウス、ニラハウス、秋野不矩美術館、一本松ハウス ほか

1981年 日本都市計画学会賞
1997年 日本芸術大賞
1998年 日本建築学会賞(建築論文)ほか



入江 雅昭 (いりえ よしあき)

1957年 熊本県生まれ
1980年 熊本大学工学部環境建築工学科卒業
1991年 IGA建設計画設立

● 主な作品

古閑邸 ほか

1998年 第4回くまもとアートポリス推進賞選賞
1999年 第3回JIA熊本住宅賞選考委員賞



柴田 真秀 (しばたまさひで)

1958年 熊本県生まれ
1982年 法政大学工学部建築学科卒業
1992年 UL設計室設立

● 主な作品

作品百道の住宅 ほか

2000年 第4回JIA熊本住宅賞奨励賞



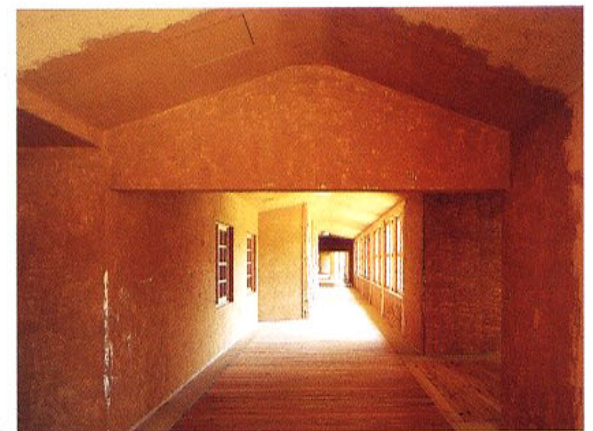
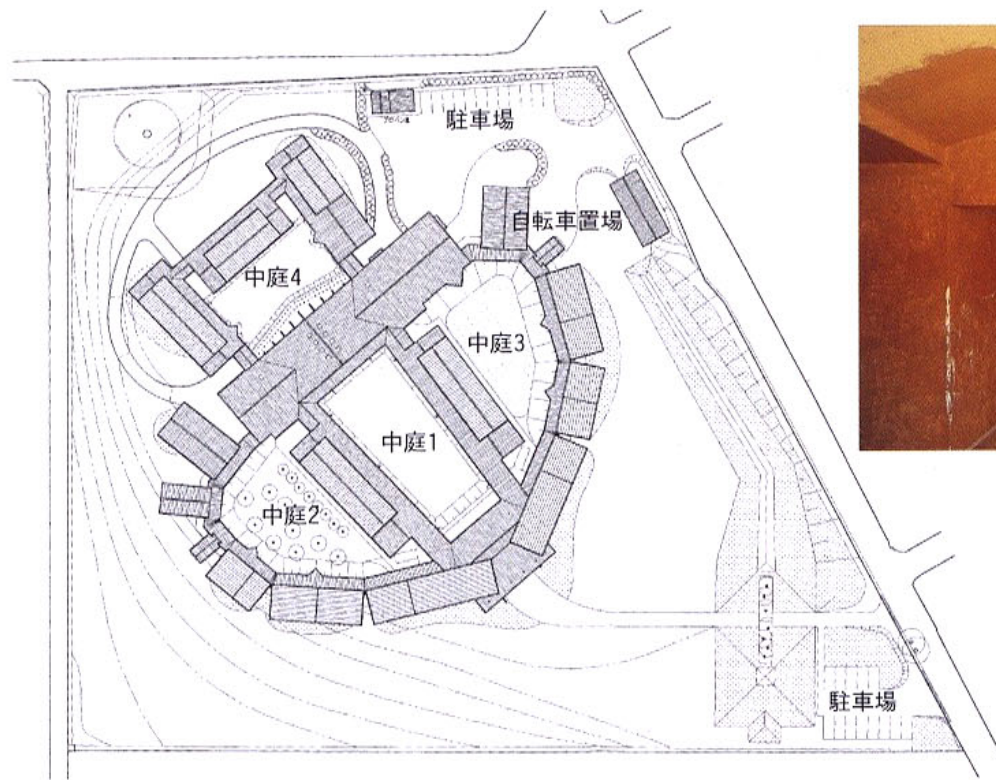
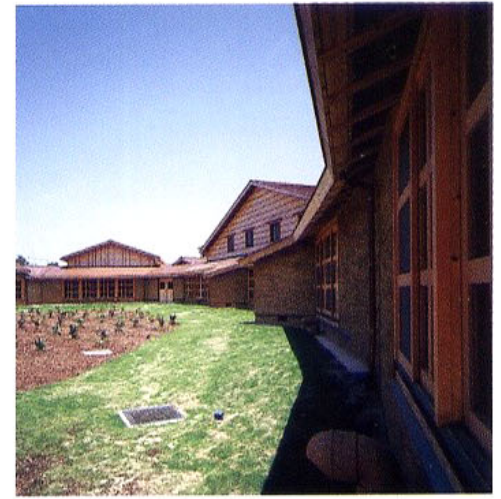
西山 英夫 (にしやまひでお)

1959年 熊本県生まれ
1982年 熊本工業大学建築学科卒業
1983年 神戸大学工学部環境計画学科研究生修了
1991年 西山英夫建築環境研究所設立

● 主な作品

COUNTRY SCAPE ほか

1998年 第2回JIA熊本住宅賞最優秀賞



● 建築データ

名 称/熊本県立農業大学校学生寮
所 在 地/菊池郡合志町栄3803
主要用途/学生寮
事業主体/熊本県
設 計 者/藤森照信+入江雅昭+柴田真秀+西山英夫
施 工 建築/富坂建設、三和建設、生田工務店、七城建設、日動工務店
電気/日建電設、藤原電工、西日本電工、健栄テック
機械/西部管工土木、千代田工業、西山商会、蘇陽施設産業

敷地面積/24,047.22㎡
建築面積/4,175.49㎡
延 面 積/5,409.51㎡
(寄宿舎棟5,297.87㎡ プロパン庫29.81㎡ ゴミ置場81.83㎡)
階 数/地上2階
構 造/木造+鉄筋コンクリート造
外部仕上 屋根/アルミ亜鉛メッキ鋼板 t=0.35立ハゼ葺、一部銅板 t=0.35立ハゼ葺
外壁/杉板 t=15貼 一部銅板貼及び色モルタル塗
施工期間/1999年7月-2000年3月
総工事費/1,649百万円

PHOTO/宮井政次